

「1人で6000件」不適切登録横行

マイナンバー総点検の中間報告では、行政

の現場で不適切なひも付け処理が横行していた実態が明らかになった。今月中には、個別データが正確かどうかの確認が本格化。作業の一時は、正しくひも付けをしていた自治体にも及び、戸惑いの声が上がる。岸田政権内からは楽観論も漏れるが、国民の不信感は消えそうにない。=●面参照

△恨み節

不適切な処理が目立ったのは障害者手帳の事務だ。静岡県では、管理システムに登録済みの身体障害者手帳九万件余りを調べたところ、少なくとも六十二件は同姓同名の別人のマイナンバーがひも付けされていた。

作業効率化のため、本人の番号かどうか片仮名氏名と生年月日だけで確認していたことが原因で、県担当者は「漢字氏名と性別、住所でも特定すべきだった」と振り返る。年六千件ある登録作業は職員一人が担当し、別の職員によって確認はしていなかった。

マイナンバー総点検 中間報告



「マイナンバー情報総点検本部」会合ではあいさつする岸田首相。右から2人目は河野デジタル相=8日午後、首相官邸で

誤りが見つかってため、政府は適切なひも付けをしていた自治体にも作業を要請する。

大阪府の担当者は「入力時に複数人で何度もチェックしないよう徹底しきだ。全件を自視で確認するより求められたら、通常業務と並行して終えるのは無理」と訴える。

△廃棄

政府は十一月末までの総点検完了を目指す。再発防止策も同時に進め、信頼回復を図る方針だ。岸田文雄官房の周辺は「総点検、再発防止、不安払拭の三本柱だ。首相が自ら陣頭指揮を執る」と強調する。

首相は七月からデジタル施策に取り組む地方の現場を相次いで視察。「世界最先端のスマート行政の実現」を掲げ、デジタル化を加速させる構えだ。政権幹部は「デジタル化を進める初期の段階でシステムが起らざるシスチムの設計にしておべきだった」(岐阜県瑞浪市の担当者)との恨み節が漏れる。

誤りとは裏腹に、国民の不信感は収まる気配がない。浜市では「制度が不安」など主返納が七月に百六十三件あった。五月は十一件、六月は一百四十件で、増加が続いている。担当者は「返納したいと言われば、爾々と対応するしかない」と嘆く。

マイナンバーを巡る主な日程	
8月8日	総点検の中間報告
8月中旬	個別データ点検に本格着手
9月	マイナンバー登録に関する横断的ガイドライン策定
原則11月末まで	個別データ点検を完了
	点検状況見ながら健康保険証廃止時期を判断
秋	健康保険証廃止
3月末まで	マイナカードに運転免許証機能
2025年3月	次期マイナカードを導入

△無理

総点検は今後、行政が保管する個人データに、本人のマイナンバーがひも付けられていくかどうか確認する段階に入る。

健康保険証は千五百七十万件のデータを対象に先行して確認した結果、新たに千六十九件の誤登録が見つかった。確認が終わっていないのは十五万件。転職や引っ越しで公的医療保険の加入者資格が変わった人のデータで厚生労働省幹部は「確認が大変」と明かす。

障害者手帳情報では多数のものも見つかる。